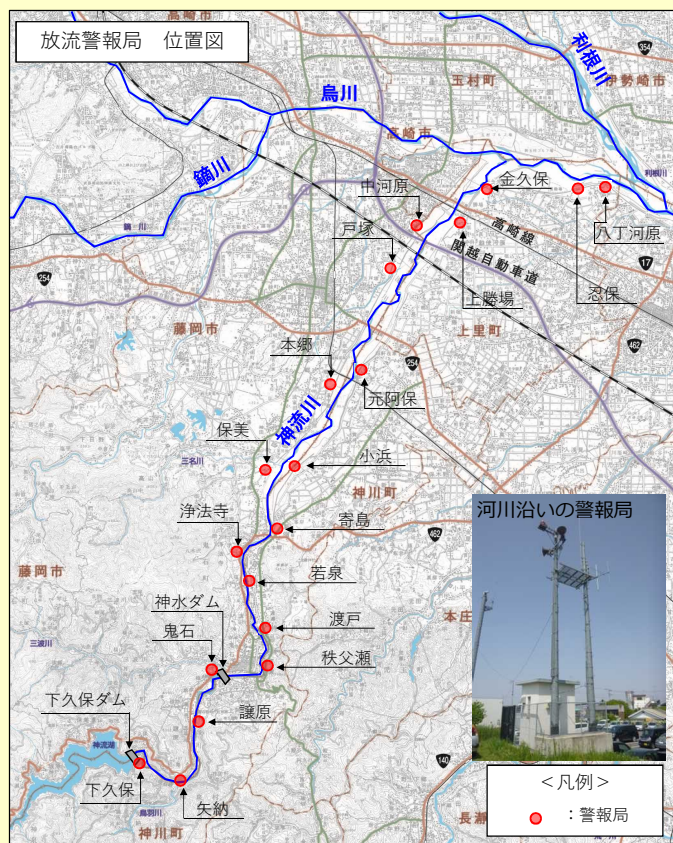


下久保ダムから直接放流を行う時の放流警報について

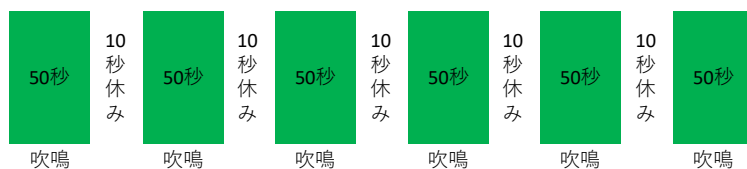


ダム放流時のサイレン吹鳴について

- ・ 利水補給のために下久保ダムから放流する場合は、通常は地下の導水管を通して神水ダムに放流されます(この発電放流のみでは不足する場合は下久保ダムの利水バルブより不足分を放流します)。
- ・ **出水の場合は、利水バルブでは放流量が不足するため、常用洪水吐(オリフィスゲート)から放流を行います。**
- ・ 通常より多い量の水を放流しますので、**ダム下流河川では水位が上昇します。**
- ・ **常用洪水吐からの放流を行う場合は、放流開始30分前よりダム下流河川に設置している警報設備からスピーカ放送及びサイレン吹鳴します。**

・このスピーカ放送、サイレン吹鳴が聞こえたら、危険防止のため、川から速やかに離れてください。

サイレン吹鳴のパターン



大雨時（通常の防災操作）



- ①音声
放送

オリフィスゲート放流開始時

- ・洪水調節に備えて、ダムに流入する水量と同程度の流水をオリフィスゲートから放流して貯水位を維持し、洪水調節に備えて空き容量を温存します。
- ・オリフィスゲートからの放流により川の水位は上昇しますので川に近づかないでください。
- ・オリフィスゲートからの放流を開始する前には、下久保ダムから神水ダムまでの区間において音声放送＋サイレン、警報車による巡回（音声放送）などでお知らせします。

大雨時（洪水調節）

- ・ダムへの流入量が毎秒800立方メートルを超えた時点から下久保ダムは洪水調節を開始します。
- ・下久保ダムの洪水調節は、ダムへの流入量が毎秒2000立方メートルのときにダムから放流する量を最大で毎秒500立方メートルに制限し、洪水の多くをダムに貯めこむものです。
- ・洪水調節を開始した場合は、川の水位の上昇速度が遅くなったり、低下したりする場合がありますが、**川の水位は依然として高い状態が続くため、川に近づかないでください。**
- ・ダムからの放流量が洪水流量である500m³/sに達する際には、**下久保ダムから烏川合流点までの区間において**音声放送＋サイレン****、警報車による巡回（音声放送）などでお知らせします。

異常豪雨時 異常洪水時防災操作（緊急放流）



- ### ①緊急効果音

- ・計画規模を上回る出水によりダムが満杯に近づき、洪水調節容量が不足すると想定される場合は、残された洪水調節容量を有効に活用しつつ、ダムからの放流量を増加させ、**ダムに入ってくる水と同じ量を放流する操作を行います**（ダムが無い状態と同じになります）。この操作を『異常洪水時防災操作（緊急放流）』といいます。

- ・緊急放流によりダムからは計画より多い量の放流(ただし、流入量を超える量を放流は行いません)を行うことになり、神流川の水位は急激に上昇し、川が氾濫する危険性が極めて高い状態です。

- ・緊急放流を開始する前には、下久保ダムから烏川合流点までの区間において**緊急効果音(スピーカ放送)+音声放送+サイレン**、警報車による巡回(音声放送)、**情報表示板**でお知らせします。

緊急効果音・サイレン音はQRコードから試聴できます。

QR音声を鳴らしてよい
環境下で、音量に注意
して試聴してください。



緊急効果音
(スピーカ放送)



サイレン